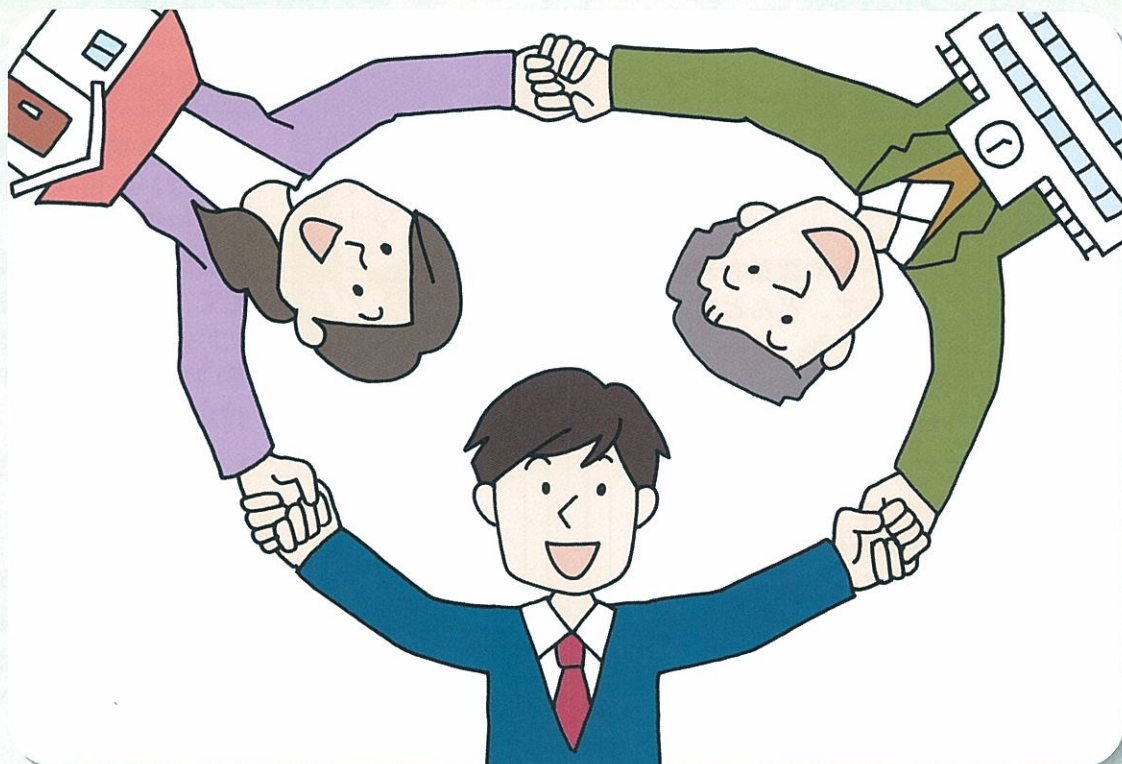


高 等 学 校 生 徒 を

チームで支援をするために

— 個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成と活用において —



このパンフレットは、学習面、生活面、進路面など多様な困難さのある生徒の情報を校内で共有して、適切な指導と必要な支援を行うためにチームによる支援について解説したものです。

チームによる支援とは、校内委員会で学校としての方針を決め、全校での共通理解のもとで、

- ・学級担任、教科担当等、各分掌が連携・協力する機能的な校内支援体制を構築し、
- ・外部の支援機関のもつ機能を活用し、
- ・本人、保護者が参画して、

一人一人の生徒の教育的ニーズに応じていくものです。

このような総合的な支援は、すべての高校生の学習意欲や学力の向上、情緒の安定、自己肯定感の向上につながっていきます。

平成21年3月に群馬県教育委員会から発行された「高等学校における発達障害の生徒たち～教師がかわれば、生徒もかわる～」のパンフレットを併用すると効果的です。

群馬県教育委員会
平成22年3月

生徒・教師の困難さへのチーム支援について

●● 高等学校における困難さ ●●

● 生徒の困難さ ●



学習面

- ・授業がよくわからない。
- ・勉強したことが覚えられない。
- ・レポートや課題を忘れてしまって、どんどんたまってしまおう。
- ・先生にやる気がないと言われてしまった。



生活面

- ・友達とうまくつきあえない、対人関係が苦手。でも友達を作りたい。
- ・イライラして、すぐ怒ってしまう。気にいらぬ。
- ・学校へ行きたくない。



進路面

- ・将来、何をしたいのかよくわからない。
- ・何度、面接に行っても、落ちてしまう。
- ・適性のある進路がわからない。

二次障害の心配

- ・学校へ行きたくない。
- ・体の調子が悪い。
- ・ムカムカ…どうなってもいいや。

● 教師の困難さ ●



学習指導

- ・担当する学級の成績があがらない。指導力が不足しているのかな…。
- ・生徒にレポートや課題をさせて、進級に向けて指導したいのに、どうやったら生徒のやる気がでるのか…。
- ・授業が進まない…。



生徒指導

- ・学級でいじめがある？何度注意しても改善しない。
- ・学級でトラブル続出…。学級経営がうまくいってないのでは…。
- ・学級全員、楽しく学校生活を送らせたい。



進路指導

- ・進路面談を繰り返すが、なかなか本人、保護者の考えと意見が一致しない。
- ・個別相談しているが、助言の仕方がわからない
- ・進路先でうまく適応してくれるか、心配…。

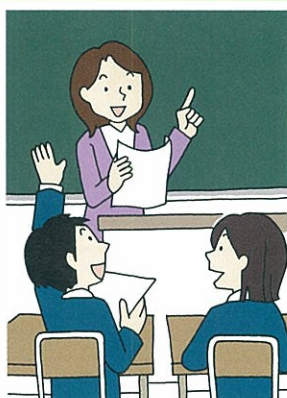
やる気や自信の低下

- ・自分の指導に問題があるのではないか。
- ・指導を工夫しても、うまくいなくて自信がなくなる。
- ・これ以上指導を続けてもむだではないか。

チームによる総合的な支援

校内委員会で、学校の方針を決定し、全校で組織的に以下のことに取り組もう。

- ・ 特別支援教育コーディネーターを中心に、チーム支援のための情報収集を図ろう。
- ・ チームで支援会議を開き、指導方針、指導方法等をたてよう。
- ・ 校内の職員全員で指導・支援の共通理解を図ろう。
- ・ 個別の指導計画を作成して、継続して指導をしていこう。
- ・ 個別の教育支援計画を作成して、外部の支援機関と連携して支援しよう。



学習面での支援として

- ・ 指導方法、生徒への配慮事項についての情報を共有して、より効果的な学習指導を行えるようにする。
- ・ 指導についての手立てを工夫し、わかりやすい授業を展開する。

例えば 板書と説明を同時にしない。指示や発問は簡潔に丁寧にする。プリントの重要箇所は、分かりやすく表示する。

→各教科担当者が指導の工夫を共有する。



生活面での支援として

- ・ 全職員が協力して生徒指導に当たり、課題については、学校全体で対応方法を考える。
- ・ 一人一人の学校生活や家庭状況等の実態把握を丁寧に行い、一人一人の実態に応じた学校生活への適応指導を工夫する。

例えば 生活習慣の改善についてきめ細かい指導を行う。ルールを明確にし、丁寧な生徒指導を行う。

→生徒指導部、学年等を中心に全職員が共通理解に基づいて対応する。



進路面での支援として

- ・ 進路情報の提供や外部の支援機関との連携を図るなど、進路面談等を組織的に行う。
- ・ 自己理解が深まるよう体験的な活動を設定するなど進路について考える機会を多く持たせ、キャリア教育の観点に立ってきめ細かく指導する。

例えば 進路面談をきめ細かく行って、自分の得意なこと、苦手なこと等を理解できるようにしていく。インターンシップの充実。

→進路指導部、学年、外部の支援機関が協力して対応する。

一人一人に応じたチームによる支援を行っていくには、
機能的な校内支援体制づくりが大切です。(次のページへ)

機能的な校内支援体制づくり～ある高等学校のチーム支援例～

生徒・教師の困難な状況を解決していくためには、校内支援体制を構築して、チームで支援していく必要があります。さまざまな方法がありますが、例えば…。

校内委員会において、指導・支援の方針やチーム支援に向けた体制づくりを決定

特別支援教育コーディネーターに指名された。
何をしよう？どうしたらいいのだろう？

【生徒全体の実態把握】

- ・教職員へのアンケート調査
- ・教職員からの聞き取り
- ・校内委員会での話し合いなど



気になる（指導に困っている）生徒がいる。
何とかしたい。

【気になる生徒の実態把握】

- ・担任、教科担当者等からの聞き取り
- ・授業観察
- ・本人との面談
- ・保護者との面談 など



気になる生徒について話しあってみるが
実態がうまくつかめない。

気になる生徒の実態把握をし、
指導を行うが効果が上がらない。

ケース会議・支援会議を実施する。

生徒の実態や気になる様子について、さまざまな視点から情報交換し、生徒の指導目標、指導方針を立てる。

- ★情報交換をすることで、他の教職員が行った指導の成功例が見つかることが多い！
- ★場合によっては、生徒本人が参加して、目標設定、評価に加わる。

うまくいかなかったら、再度、
ケース会議を開催し、修正する。

「個別の指導計画」・「個別の教育支援計画」の作成と活用

- ・情報の共有化と活用
- ・連携が効果的、円滑に進む

全職員への共通理解を図る

全職員が共通理解をもって、対象生徒の指導を行う。（授業、ホームルーム、部活等）

- ★教職員の共通理解を深め、指導を工夫するだけで改善できるケースも多い。

もし、こんな状況であれば、外部の支援機関との連携を

「よい指導方法が見つからない」「卒業後の生活が心配」「専門家に相談が必要だ」

【特別支援学校・専門家等との連携】

- ★本人、保護者との面談や情報交換を通して助言をもらうことで、幅広い指導・支援が可能となる。

【保護者との連携】

- ★家庭と学校との情報の共有化が図られ、より深い実態把握と家庭との連携を図ることができる。

チーム支援により期待される効果



【生徒】 学習意欲向上・学力向上
安心感のある学校生活
適性に応じた進路選択



【教師】 一貫性のある各教科等の指導
実態に配慮した生徒指導
ニーズに応じた進路指導

● 学習面での支援ケース ～学習意欲が低下しているA君～



● 気になる様子

授業中は居眠りをしていてノートをとらず、成績は下降している。この状態が続くと、学校生活への意欲も低下して、進級も難しくなってしまうそう。

● チーム支援の取組

担任との面談時、A君が「勉強がわからない」と訴えた。そこで支援会議を実施したところ、どの教科もほとんどノートをとっていないことがわかった。「毎回ノートをとるように声をかけて注意を促す」という指導方針を立てた。その後、全職員へA君の支援方針について協力を呼びかけた。これをきっかけに、職員間でA君に関する情報交換の機会が増えた。

★メンバー 正副担任、学年主任、生徒指導主事、教育相談係、養護教諭、教科担当者（国数英など）、特別支援教育コーディネーター、特別支援学校の特別支援教育コーディネーター

● 支援の効果

各教科担当者が個別の声かけ、板書の工夫等を行ったことにより、A君の学習意欲が向上し、無事に進級した。A君は「勉強が楽しくなってきた」と話している。

● 生活面での支援ケース ～イライラして、トラブルが絶えないBさん～

● 気になる様子

感情の起伏が激しく、ささいなことでもイライラしやすい。衝動的に暴言を吐いたり、物に当たったりするので、友人とのトラブルが絶えない。

● チーム支援の取組

支援会議を実施し、「ストレスマネジメントの方法等の手法を取り入れた指導を行い、ストレスの解消法を学習させる」という指導方針を立てた。その後、特別支援教育コーディネーターを中心に、職員が定期的に本人の相談に乗り、担任は教科担当者や保護者との情報交換を行っている。

★メンバー 正副担任、学年主任、生徒指導主事、教育相談係、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、特別支援学校の特別支援教育コーディネーター

● 支援の効果

イライラする場面が少なくなり、友人とのトラブルも減ってきている。落ち着いて授業に取り組めるようになり、成績も向上している。

● 進路面での支援ケース ～進学後の生活が心配なC君～

● 気になる様子

いつも一人で行動している。独り言が多い。急な予定変更や新しい環境に対応することが難しく、担任が個別にかかわることが多い。大学進学を希望しているが、進学後の生活が心配である。

● チーム支援の取組

支援会議を実施し、「ソーシャルスキルトレーニング等の指導を行い社会人として必要なコミュニケーションスキルを身につけること」を目標とし、全職員でC君への指導についての共通理解を図った。また卒業後に外部の支援機関が利用できるように、在学中から臨床心理士との面接を月1回受けることになった。

★メンバー 正副担任、学年主任、進路指導主事、生徒指導主事、教育相談係、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、特別支援学校の特別支援教育コーディネーター、臨床心理士

● 支援の効果

担任や特別支援教育コーディネーターとの定期的な面談により、進路に対する意欲が高まった。担任や進路指導主事が、個別の小論文指導や面接指導を行い、大学進学が決定した。現在、落ち着いた大学生活を送っている。

チームによる支援を行っていくためには、情報の共有がとても大切です。
個別の指導計画や個別の教育支援計画(作成例は次のページ)を作ると効果的な連携が進みます。

情報の活用と連携に効果的な「個別の指導計画」 「個別の教育支援計画」の作成と活用について

チームによる支援を継続的に行っていくためには、情報の共有がとても大切です。
情報を共有する上で、個別の指導計画や個別の教育支援計画等を作ると効果的に連携が進みます。

個別の指導計画 (主に学習面・生活面の支援に活用)

① 実態把握

作成者名: _____ 作成日:平成 ____年 ____月 ____日

フリガナ		性別	校長名		担任名	
生徒名			生年月日	平成	年	月 日
			保護者名		家族構成	
生育歴						
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校からの引継や保護者から聞き取った内容等を簡潔に記入。また、外部の支援機関機関からの支援の記録等も記入 						
障害・疾病・諸検査の結果						
<ul style="list-style-type: none"> ・障害/疾病: 診断名(診断年月日)や医療機関名、服薬の状況等を記入。(該当がない場合は無記入) ・諸検査の結果: 心理検査(WISC-III等)の結果や、医療機関からの情報等を記入。(該当がない場合は無記入) 						
現在の状況						
<ul style="list-style-type: none"> ・学力、学習面・生活(行動)面の特徴、社会性・対人関係、言語・コミュニケーション、興味関心等について記入。 ・状況が変わった場合は適宜補足・修正。(修正前の記録も消さずに残しておく。) 						

○実態把握のポイント

- ・複数の視線・視点による客観的な実態把握を
- ・「気になる面、できないこと」ばかりでなく「よい面、できること」に着目
- ・チェックリストや心理検査等による実態把握を有効活用
- ・情報は指導、支援計画の作成に必要な範囲のみに限定、情報の適切な管理についても十分留意

② 指導目標・指導内容・指導方法

作成者名: _____ 作成日:平成 ____年 ____月 ____日

生徒名		
年間指導目標(長期)		
<ul style="list-style-type: none"> ・苦手な教科もバランスよく学習し、総合成績を向上させること。 ・グループ分けのとき、自分から他の生徒に声をかけることができる。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動により、1年間の期間で達成可能な指導目標を簡潔に記入。 		
【前期】 (【後期】) ※あるいは学期ごとの区切りで		
	短期目標	指導の手立て
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・英語のノートを整理して記入することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターの活用による教材の視覚化、板書の工夫【英語担当】 ・放課後、ノートの取り方について個別指導。【学級副担任】 ・学習意欲が維持できるよう、得意な分野を評価(言葉がけ)【数学担当】
生活面(行動面)	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導目標を達成させるための下位目標を記入。 ・指導すれば期間内に達成できそうなことを目標にする。 ・抽象的な目標では生徒の変容が見えにくく、評価もできない。できるだけ具体的な目標を設定。 ・短期目標は学習面・生活面の他、教科ごとに区切ってよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の各目標を達成させるための具体的な指導の手立てを記入。 ・生徒の特性や実態に配慮した手立てを考える。 ・生徒への直接的な指導だけでなく、授業の方法等についての工夫についても記入。
評価(生徒の変容)		
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の変容だけでなく、目標設定や指導の手立てが適切だったかどうかについても評価。 ・前期/後期、あるいは学期ごとの区切りで、指導の成果や課題、次の期間への引継等について記入。 		

個別の教育支援計画 (主に進路面の支援に活用)

①連携を効果的に進めるために必要な情報

作成者名: 作成日:平成 年 月 日

フリガナ		性別	生年月日	平成 年 月 日
生徒名		保護者名		家族構成
住所 〒			電話番号	
			緊急連絡先	
本人の希望			保護者の希望	
<ul style="list-style-type: none"> 理系の大学に進学し、一人暮らしをしながら生活スキルを高めたい。 			<ul style="list-style-type: none"> 高校在学中から大学卒業後までの生活や進路について相談する支援者がほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> 在学中や卒業後に「こんな生活がしたい」といった内容や進路等について記入。(本人・保護者の希望が現実的でなかったり、卒業後の見通しがもてないなどの場合は、学校や関係機関が助言しながら希望を具体化) 学校、家庭、仕事、休日の過ごし方、社会(人)との関わり等の中での希望をまとめるとよい。 				
現在の課題			支援の方針(長期)	
<ul style="list-style-type: none"> 苦手な教科の成績が伸び悩み、学習意欲が低下している。 必要な場面でも自分から人に関わるができない。 			<ul style="list-style-type: none"> 学校や家庭における効果的な学習方法を習得したり、進路についての見通しを持つことができるように支援を行う。 ソーシャルスキルトレーニングやカウンセリングにより、コミュニケーションスキルの向上をめざす。 	
<ul style="list-style-type: none"> 希望を達成する上で課題となることを記入。 			<ul style="list-style-type: none"> 課題を解決するための支援の方針を記入。 	
具体的な連携・支援の内容(短期)				担当・連絡先
家庭				
教育	巡回相談による観察及びソーシャルスキルトレーニングを実施	<ul style="list-style-type: none"> 課題を解決するために必要な連携や支援の内容を、できるだけ具体的に記入。 	〇〇特別支援学校	
福祉	卒業後の生活に関する本人・保護者との相談		発達障害者支援センター	
医療	月1回カウンセリングを実施、内容を学校にも報告		〇〇病院 臨床心理士	
労働				
その他	当事者同士による相談を実施		〇クラブ(当事者親の会)	
評価(支援の結果及び引継事項)				評価の時期:平成 年 月
<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ評価の時期を定めておき、支援の結果を記入。残された課題や引継事項も記入し、次の機関や進路先に引継ぐ。 個別の教育支援計画を作成するときや、支援の評価をするとき、必要に応じて「支援会議」を開くことがある。 ※支援会議には、学校、保護者、外部の支援機関等の中から、必要なメンバーが参加。 				

※この計画については、本人、保護者と一緒に作成していくものです。他の機関へ情報提供したりする場合は、本人、保護者の同意が必要です。(署名欄を設ける場合もあります)

②指導/支援の記録 (継続した指導・支援のための記録)

生徒名				
月 日	気になる場面や行動	対応や手立て	生徒の様子・変容	所見・備考
	<ul style="list-style-type: none"> 所見・備考欄には、そのときの対応や手立てが適切であったか等について記入。 			
外部の支援機関等による支援の記録				

●こうした記録があると指導・支援の経過がわかり、具体的な手立てが見えてきます。

- 決まった書式はありません。上記の書式は一般的な例です。
- 高校生においては、生徒の状況によって支援会議に本人も参加したり、目標設定や評価に参画することで、より主体的な取り組みができたり、自己理解が深まる場合があります。
- はじめから全ての項目を埋める必要はありません。できるところから取りかかってみてください。



チームで支援することで期待される学校全体への効果

	チーム支援の推進	期待される学校全体への効果	活用すると効果的な計画類
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた学習できる環境の整備 ・特性に応じた教科指導の配慮や工夫 ・チーム支援により、必要に応じて教科の指導方法を共通化 	<ul style="list-style-type: none"> ●授業改善により、生徒の基礎学力が高まる ・授業力・指導力の向上 ・教科指導情報の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画 ・学習指導案 ・シラバス 等
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・実態把握に基づく適切な指導と必要な支援 ・チーム支援により、生徒情報の共通理解と指導方針、方法の共通化 	<ul style="list-style-type: none"> ●適切な生徒指導と必要に応じた教育相談において、自己コントロールができるようになり自己肯定感等が高まる ・規範意識の向上 ・不安や不満の解消 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画 ・個別の教育支援計画 ・道徳教育の全体計画 ・生徒指導、教育相談関係資料等
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・自立や社会参加に向けて持てる力を伸ばす指導 ・キャリア教育の観点にたった適切な指導、必要な支援 ・自己理解を深め、関係機関と連携した卒業後の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ●自己理解を深め、適切な進路選択と卒業後の生活の安定が図ることができる ・キャリア教育の推進 ・適切な進路先での卒業生の活躍 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画 ・進路指導関係資料

～特別支援教育がめざすもの～

特別支援教育は、障害のある生徒への教育にとどまらず、障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるものであり、我が国の現在及び将来の社会にとって重要な意味を持っています。

よって、機能的な校内支援体制を整えて、チームにより支援していくことは学校全体に対しても、よい影響が与えられると期待されます。



参考となる資料等

●群馬県教育委員会「高等学校における発達障害の生徒たち」平成21年3月

高等学校における発達障害の生徒の共通理解と学校全体での支援について解説しています

<http://www.center.gsn.ed.jp/curriculum/data/tokubetusien/panfu-kou.pdf>

※群馬県総合教育センターのHPでダウンロードできます。

●文部科学省 高等学校学習指導要領解説 総則編 平成21年7月

(第3章第5節の5「教育課程の実施等に当たっての配慮すべき事項」の(8))

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2010/01/29/1282000_1.pdf

●文部科学省「高等学校における特別支援教育の推進について」

特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議 高等学校ワーキング・グループ報告 平成21年8月27日
高等学校の体制整備、就労支援の国の方向性を知ることができます。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/054_2/gaiyou/1283724.htm